

テーマ「みんなが積極的に参加できる町内会」 B班

2012年度上越市まちづくり市民大学
2012年11月13日 於くびき希望館
B班 桜庭節子、前川修芳、大島光芳
保高博司、北川輝樹、佐藤和昭

1 テーマを選んだ理由や背景

- ・ B班のメンバー6名中4名がUターン組。久しぶりに戻ってきた町内会に違和感や疑問を感じていたメンバーが多い。
- ・ 町内会では話し合う前から結論が用意されていたり、違った考えが抑え込まれてしまう。
- ・ 話し合いや活動になると積極的に参加する人が少ない。
- ・ そういった現状を何とかしたいという気持ちからこのテーマとなった。

2 検討の進め方

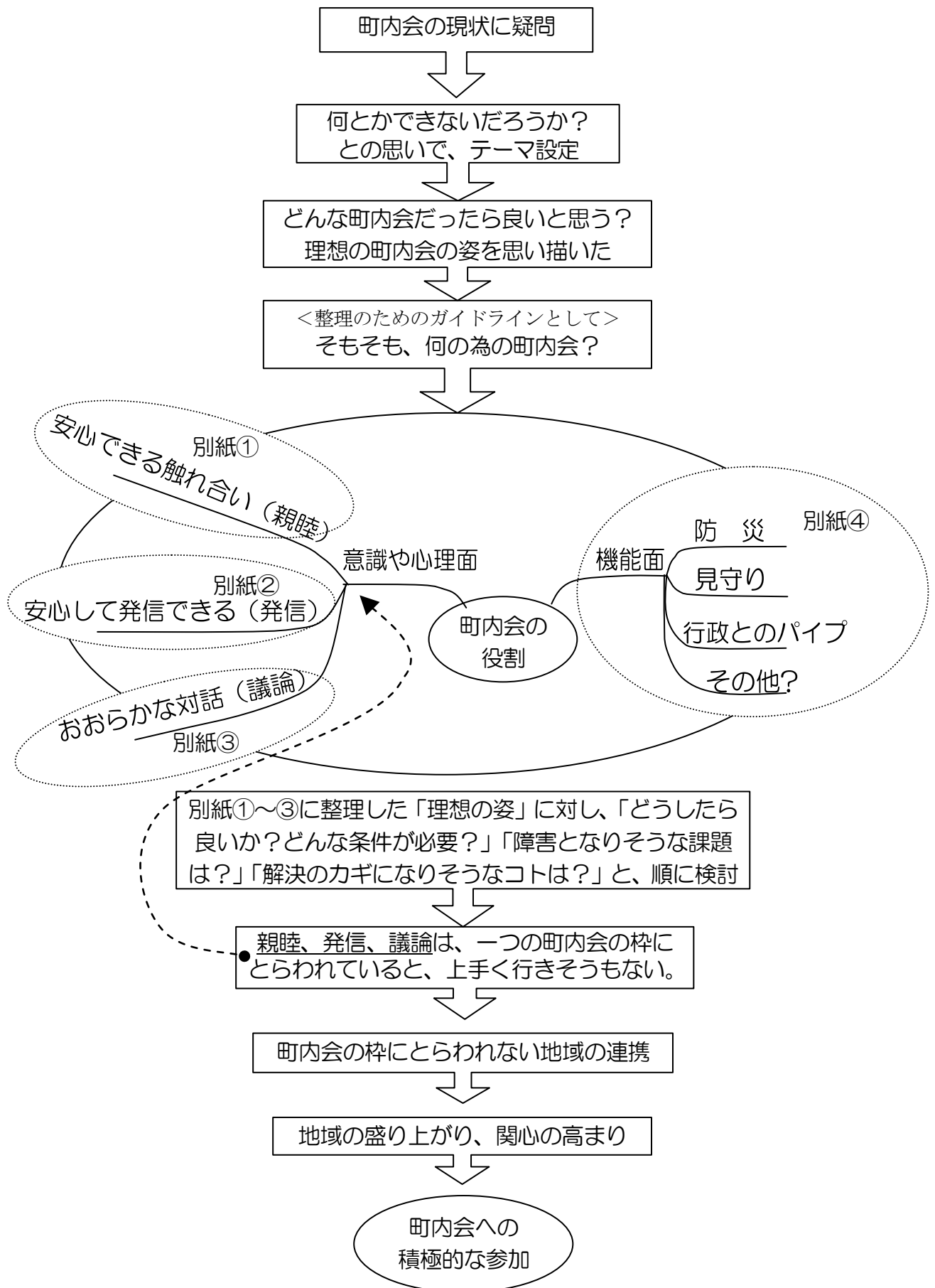
- ・ 自分がいる町内会について、メンバーが話題を提供。話は以前に住んでいた町内会のことでも県境や国境をも越えて広がった。
- ・ それでは、どんな町内会だったら良いのか？あるべき理想の町内会の姿をみんなで書き出してみた。
- ・ すると見えてきたのは、そもそも何のための町内会なのか？という観点。このことをガイドラインにしてみたら何とか整理が付き始めた。

3 整理したこと（添付資料）

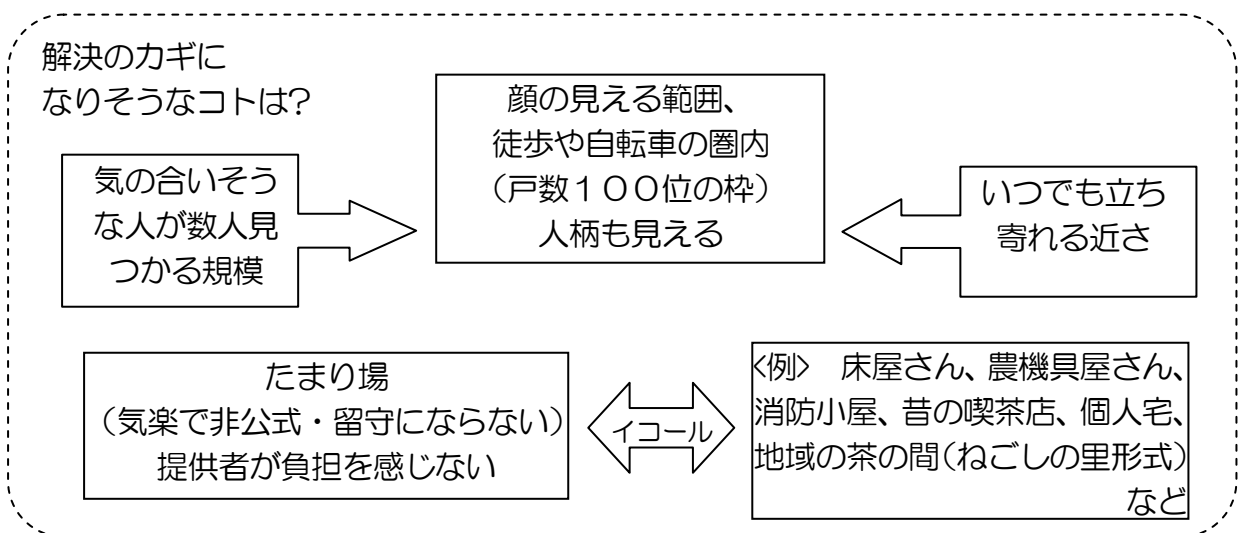
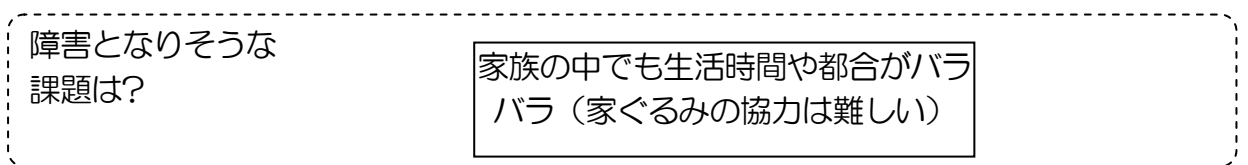
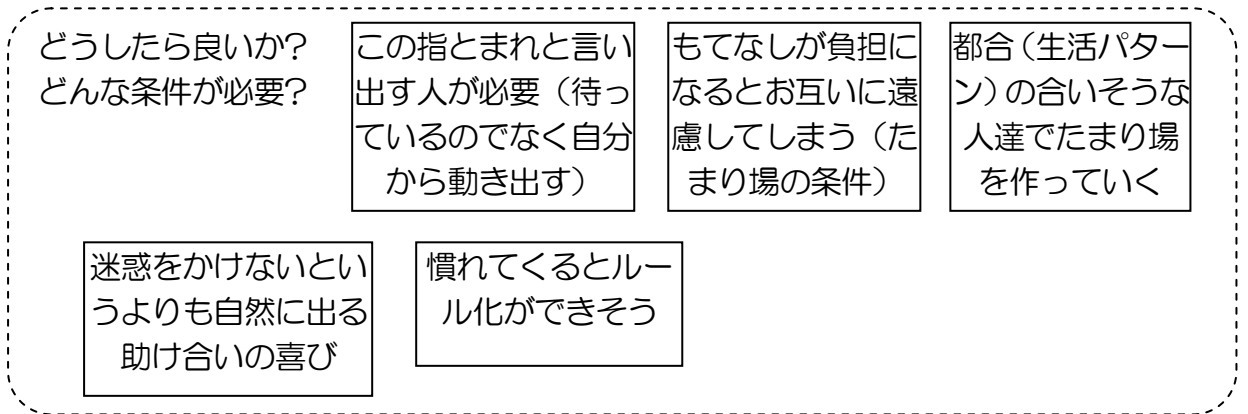
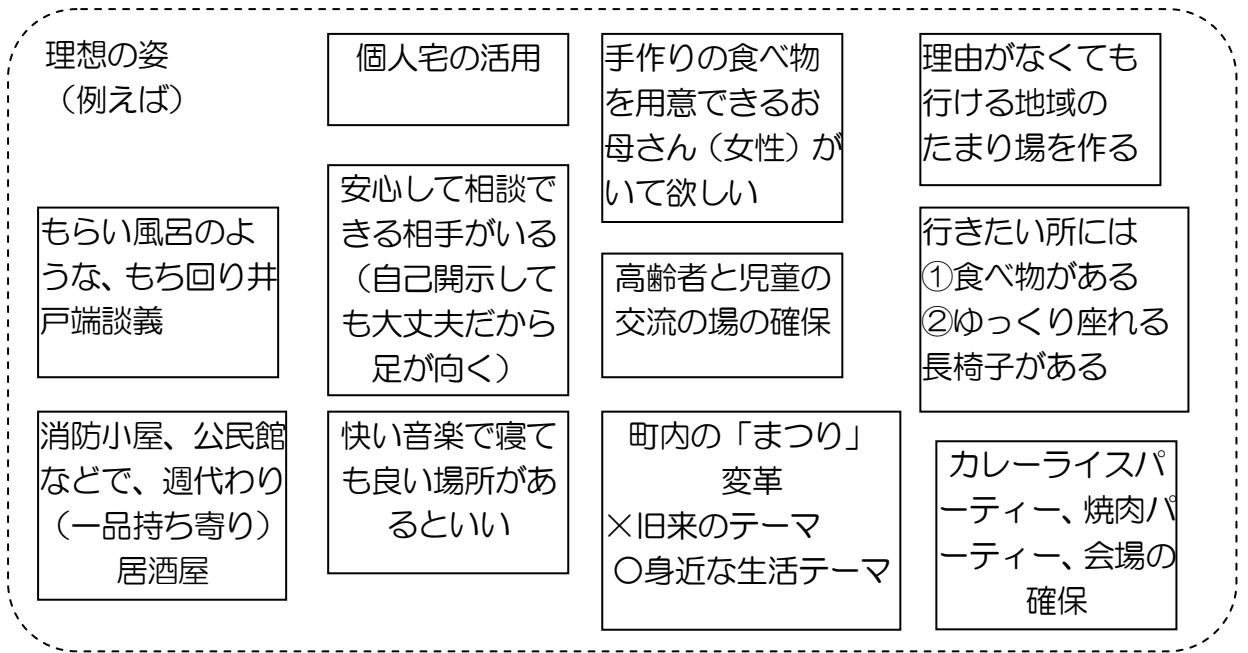
4 発表のために整理しながら見えてきたこと

- ・ 一つの町内会の枠だけで、何とかしようとしても、うまくいきそうもない。
- ・ 地域に求められる役割を考えると、重なり合ういくつもの枠組みが見えてきた。
- ・ それぞれの枠組みが連携することで地域が盛り上がり、町内会も活性化する。
- ・ これによって、子どもからお年寄りまで、みんなが積極的に町内会に参加できるのではないかと。

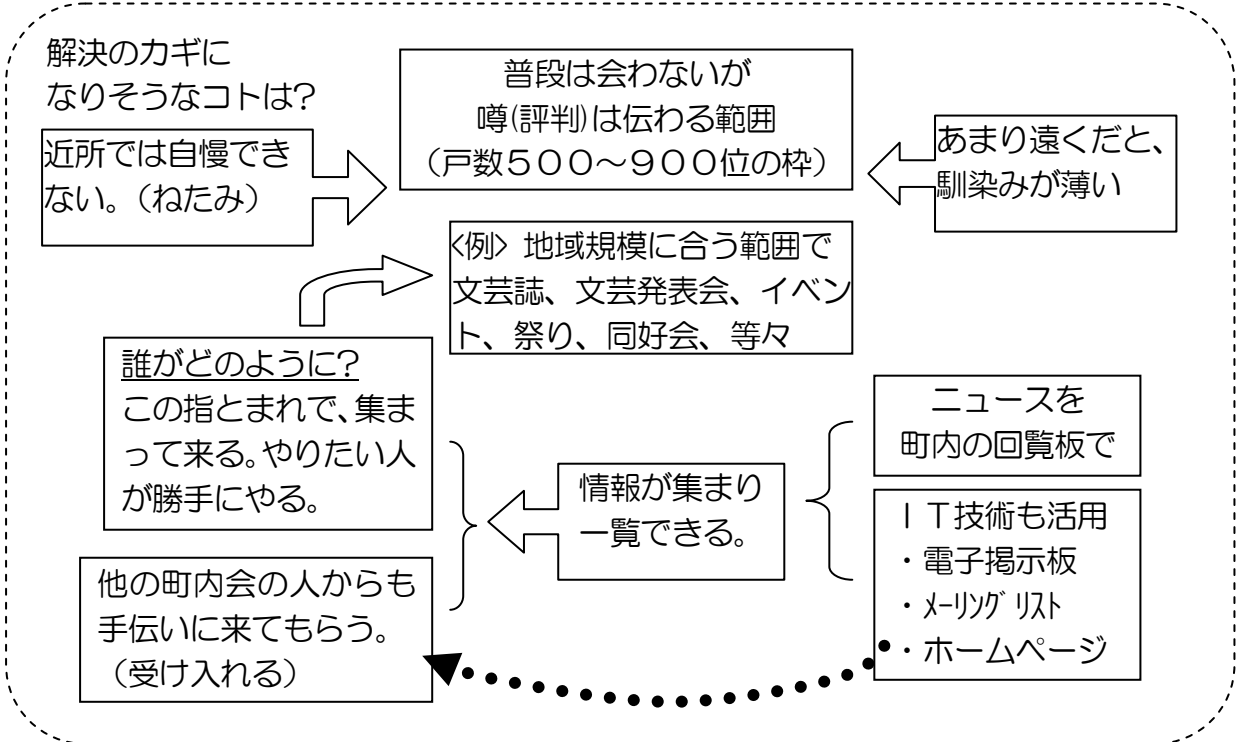
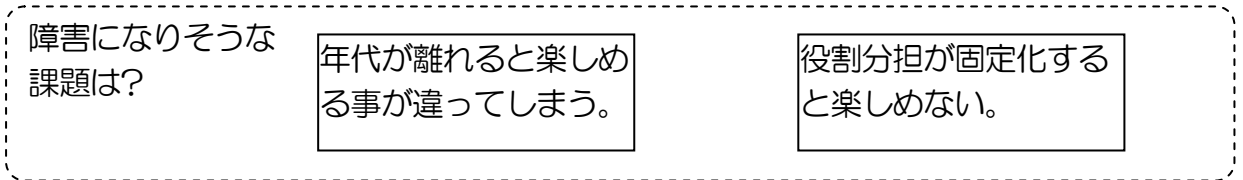
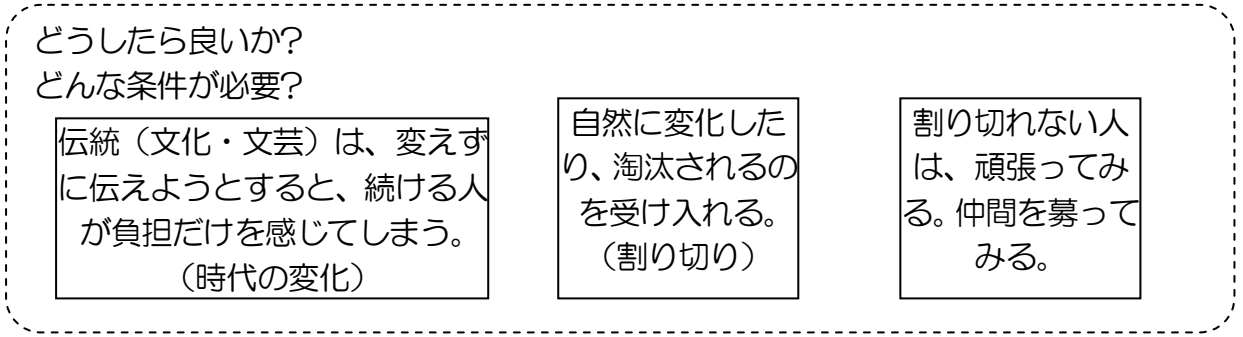
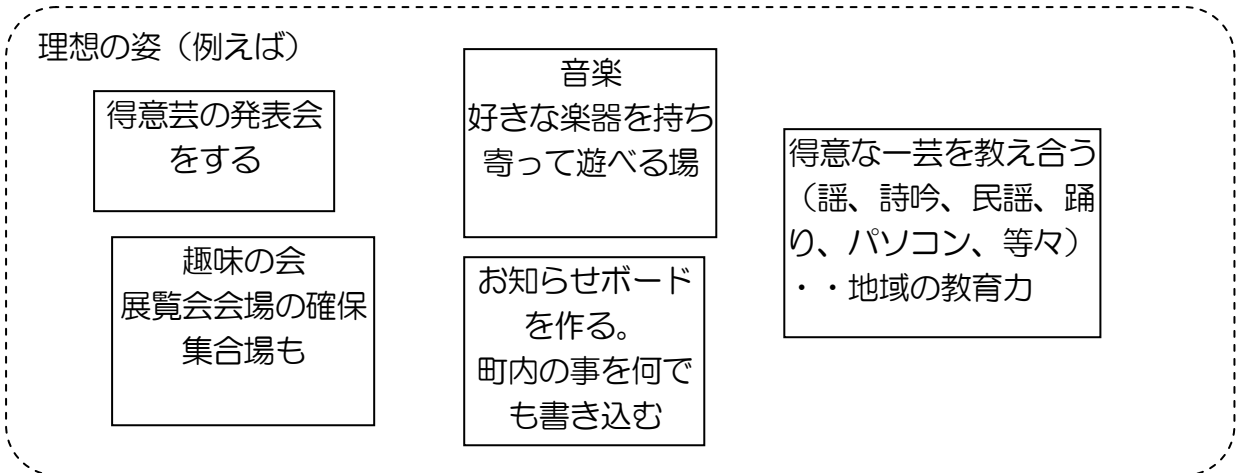
検討過程の全体をたどってみると



安心できる触れ合い（親睦）



安心して発信できる（発信）



おおらかな対話（議論）

理想の姿（例えば）

議論できる場の設定

- ・会議室もITも
- ・質問（気兼ね不要）
- ・人材（場の運営）

多種多様な意見
やアイデアを
キチンと受け止
めてもらえる。

どうしたら良いか？
どんな条件が必要？

触れ合いが既
にあると、思い
切って発言で
きる。

テーマがハッキ
リしている。

対話の練習が必
要だし、練習する
ことで、出来るよ
うになる。

若い人も自由に
意見を言える雰
囲気を作る。

話合いの進行役
議長の技量向上

話の呼び水とし
て、具体例を投げ
かける。

障害となりそうな
課題は？

形式に、こだわり
過ぎる議事進行

台本のある芝居みたい
な議論は、非生産的。
（国会答弁？）

解決のカギになりそうなコトは？

例えば

数人のグループ単位で議論
（発言の機会が増える）
グループ毎の議論を連結

議論の“交通整理”
と進行管理を上手く

それには

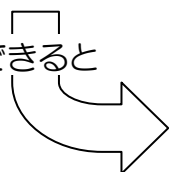
意欲の高い人を対象に、
勉強の機会を増やす。

〈案〉 市民大学のワーク
ショップに参加する

〈案〉 対話専門コースを市
民大学の中に開設する。

〈案〉 市民大学から
進行役を派遣する
（町内会議お助け人）
（ファシリテーター）

これができるよ



みんなの意識や気持ちを
大体そろえることができる。
みんなで一つの事に取り組める。

町内会の機能の面

防 災

(例)

児童と一緒に安
全マップづくり

防災の掘り下げ

見守り

(例)

民生委員と健康
リーダーによる
弱者支援ネット

行政とのパイプ

(例)

市政の情報回覧、
町内の要望反映